

～ 熱塾公開講座 浪花節を聞いたことがない、
見たことがない人への入門講座 ～

浪花節初体験ワークショップ

講師：女流浪曲師 菊地まどかさん
三味線：一風亭初月さん
日時：2006年9月14日（木曜日）午後7時～9時
会場：ドーンセンター 5階・視聴覚スタジオ

大阪に、浪曲界の
新星、若手女流浪
曲師が誕生！！
菊地まどかさん(30
歳)は、平成8年か
ら河内音頭の櫓を
舞台上に歌い始め、
13年には成世昌平
師の甲会に入門し
名取になり、富山テ
レビ番組「サンザワ
ールド民謡大会」で



は優勝、翌年には和歌山県知事賞を受賞。

平成15年に京山小園嬢師に弟子入りし、昨年2月OL生活との二足の草鞋を履き捨てて浪曲師としてデビュー、浪花節道に専念。今年1月16日「文化庁芸術祭新人賞」、3月28日「大阪舞台芸術新人賞」を受賞。前小泉首相主催の「観桜会」にも招待され、首相の手をぐっと握り締め、「菊地まどかと申します」と浪曲の節で自己紹介。「クラシックもええけど、浪花節も宜しく願います！」とアピール。一人でも多くの人に浪花節を知ってもらいたいと活動中。

大阪生まれの新進気鋭の若手女流浪曲師として今後の活躍が楽しみな菊地まどかさんを講師に迎え「浪花節を体験する」ワークショップを開催し、浪曲を聴き、歴史や舞台回り、拍子木や三味線との掛け合いについて聴いた後、参加者全員で三味線と共に浪花節を大声で唸ってみました。

まずは、浪曲を一席：「愛情乗合船」

生き別れになった娘は立派な東の国の御大家に嫁ぎ、婿と共に17年ぶりに故郷を訪ねてくるという。父は相変わらずの貧しい暮らし、再会を望みながらもこんな自分が父と名のれば大家の嫁になった娘の恥にはならぬかと思ひ悩む姿を、兄が一案を講じにわか船頭になって二人を川向から村に案内をする。櫓をこぎながら、船頭に化けた兄が、誰を訪ねていくのかと尋ねると、娘がうれしそうに父の名を告げると、「そいつは、村でも鼻つまみ者で、どうしようもない暮らしをしている」と言い捨てながら、夫婦二人の顔を伺うと・・・、流石に娘は「船頭さん、この船、岸に返しておくれ。そのような父とは会いとうはない・・・」と再会に胸ときめかせていた娘の顔はかきくもり、泣き崩れるも、婿は「帰るなら、おまえ一人で帰れ！そのような暮らしをしているならばこそ、親父さんそれは違うとさとし助けるのが肉親の情ではないか！おまえが行かぬなら、わし一人でも合いに行く！船頭さん、船を村につけておくれ！」と涙する嫁の肩を抱いて声をかける婿の姿に、妹よ本当によい人と結ばれたものよと兄も思わず喜びのあまり涙して事情を話し親子17年の月日を越えて再会すると

いう、親子の縁、兄弟の縁、夫婦の硬い縁の絆に涙・涙の愛情乗合船の一席でございます。

浪曲の歴史について

江戸の後記に形成され、明治時代に大発展した語り物。三味線の伴奏に合わせて独演し、義理人情を主題としたものが多い。関西では、明治40年代まで（うかれ節）と称した。現在の形であります。立ち高座でテーブルを前にするスタイルを確立したそうです。

桃中軒雲右衛門・吉田奈良丸に、初代京山小円（まどかの師匠であります京山小園嬢の師匠は初代小円師匠を伯父にもち、三代目京山小円として活躍されております。）をはじめ多くの浪曲師が義士伝を中心にオリジナル脚本を考え、浪花節全体の水準が高まり人気を得る。昭和11年より、浪花節《浪》と曲師の《曲》で浪曲となる。

戦後、大衆芸能として、浪曲台本の専門作家も多く、一方「浪曲天狗道場」など、ラジオ視聴者番組も制作される。文芸浪曲への挑戦として、ギターやピアノなど伴奏楽器を使つての歌謡浪曲の試みなどもあるが、昭和初期における、寿々木米若・2代虎沢虎造のような圧倒的な人気を得る演者が生まれず、歌謡曲の分野に進出して成功した三波春夫・村田英雄・二葉百合子などの方々がおられます。

テーブル掛け5点セット「湯飲み台、家紋掛け、演台掛け三台」を今年5月のデビューに合わせて後援会として松竹梅の柄で作っていただきました。

浪曲師への道

お父さん子だった5歳の頃から、民謡と三味線を習っている父親の後を追ってついてまわっているうちに、記憶力のいい子供の頃、父親の習っている曲を聞き覚え、淀川の川原で江刺追分を練習している父親のお囃子を8歳くらいから担当。江刺追分の会で「サイ～サイ」と可愛い合いの手をいれると、審査委員から「今日は娘さんのお囃子で点数が上がりましたね」と父親の受賞にいくらか貢献しながら父と一緒に一緒に舞台上上がるようになりました。やがて、民謡から、大阪生まれということで河内音頭を習い、櫓の上になるようになりました。

ある日録音した自分の声を聞くとただうるさいだけで、自分がイメージしていた柔らかく太い声とは大違い、どうしたら理想の声が出せるのかと壁にぶつかっていた頃に、昔父と一緒に聞いたことがある浪曲を聞く機会がありました。太い声、細い声、強弱があり、見事な節回しもあり、何度か浪曲をきくうちに、初めてうちの師匠の浪曲を聞く機会がありました。胸を射抜かれた感じがしました。昔からストーリーのある物語に興味があり、好きな歌うところもあれば、語りのところでおお客様の心を驚掴みにする小園嬢師匠に感動して、聴く側から演じる側になってみたいなあと思ひ9年間医療事務員として働かせていただいた病院を退職して、浪曲の道に入らせていただきました。

西谷医院長からも「大丈夫かあ？騙されてないか？このままいてたら、ボーナスもあるのに大丈夫か？」といろいろ心配していただきましたが、『今しか無茶はでけへん。今世間を騒がせている若い人にも、親の有難さとか、友達の大切さ、兄弟の思いとかを浪曲を通して一人でも多くの方に伝えられればいいなあ』と浪曲師にならせていただきました。

浪曲師の出番を飾る拍子木:

浪曲師が舞台に出てくる時には、昔は体操の時の笛がなっ
てからでてきたそうです。一座を組むと、6人一組で、一
番最後の方が「とり」で、トップを「三番叟」「露払い」
といわれ、二目、三目と進み、四番目の方を「しり三」と
いい、次に座長とりをとれるようになるであろう実力のあ
る人を四番目にもってきたそうです。5番目は「もたれ」
といって「けれん」お笑いのある楽しい浪曲を演目とされ
ていたそうです。その「けれん」の5番目の方までが、「ピ
ー、ピー」という笛の音で幕がガラガラとあけられて、6
番目に出られる座長の方が出られる「とり」の方の出番の
時だけ拍子木がならされたそうです。

今はすべて拍子木で浪曲師がでていきますが、「チョン」
という拍子木の音色で心身ともに引き締め舞台にでてい
きます。

師匠の時代、いえその前から、売りの関東、芸の関西とい
われるほど、芸については関西の人の目は厳しく、拍子木
の音色で舞台に送りだされても、芸が悪いと、「もうええ
ぞ!」と声が掛ったり、不満げに下駄でカラカラと足踏み
されたり、それでも唸っていると、お客さん自らが幕を閉
めにかかったり、お客さんの芸に対する厳しい眼鏡にか
なっただけのものが舞台に残っていったと師匠からお
聞きすると、今は声が詰まったり、せりふ間違ったりして
も暖かく見守っていただけるまどかは有難いなあと思っ
ております。

浪曲三味線について

三味線は3つに分解して持ち歩くことができます。民謡の
三味線は白い色の猫の皮ですが、浪曲の三味線はやや黄色
かかった白い犬の皮、それも寒いところで育った犬の皮が
いいそうです。撥は、上は象牙で下は鼈甲、鼈甲が多く使
用されているものほど高価やそうですが、糸も絹糸で太い
糸が使われています。

民謡には譜面がありますが、浪曲には譜面がありません。
「わたし」と言って浪曲師の人が節を渡すので、それを受
けてもらえるのが三味線のお力です。「地節」節がなく「ば
らし」一番最後の節のなかで、大阪節・早節「せめ」では
クライマックスを盛り上げます。それぞれの節を実演。

では、浪花節を喰いましょう!!

発生練習

立って、ネクタイなどは取っていただき、両手を肘で後ろ
に回して、首を回してください。肩こりがひどくなると声
が出にくくなるそうです。きき足を前に出して、お尻の穴
をぐっとしめて、唇を横に引っ張って笑顔で、まずは発生
練習「あ〜!」ドはお臍のあたりで、胸のあたりからファ
ソラシに上がってきます。

浪花節体験 初級編から上級編までを全員で体験

初級:「何が何までえ〜、何とやら〜」「何が何までえ
〜、菊地まどか〜何とやら」節は伸ばして切ると、切
れよく耳障りがよいそうです。

キーをあげます。高い声を出すときに意識して眉毛を上げ
ると目が自然に開くので出しやすいですよ。中音を出すと
きは、頬骨に共鳴させるようにして、口の中は丸く洞窟の
ようにあけて、舌を下げて下の歯の後ろに付けてみてくだ

さい。いつもよりも高い声で「今日も元気にしてた」とい
つもの声より少し高めに声をあげると声も心も元気に響
きますよ。壁に背中につけて声を出すと背筋が伸びて姿勢
が良くなり声が出しやすくなります。

中級:「聞いてください〜。わたしの名前、〇〇〇〇
〇と〜申します」

聞いてくださいまでは、何が何までと同じ節です。

上級:「めぐりくる〜 春の 流れに〜 さお〜、させ
ば〜

義理の引船 愛の船 渡る浮世の向こう岸 花が咲い
てる 真っ赤な花が

咲いて 情けの〜 実が宿〜る〜」愛情乗合船の冒頭
より。まどかさんの節の後を追って音程はとにかく全員で
大声で喰いました。

師匠は、一声二節三啖呵(=台詞)だと教えてもらって
います。

掛け声は、節が盛り上げて節が落ちる前に拍手を掛けて
いただくと、「よお〜」「待ってました」「頑張れよ」と気
楽に声を掛けていただければと思います。

最後に、阿波の殿様に見出されお城に上げる前に踊った阿
波踊りの連の中で許婚が別れを惜しむが、殿様の命には誰
も逆らうことができぬゆえ、今となっては私に近づくあん
たが危ない。大切な人故にもう私のことは諦めてと阿波
踊りの人の波の中で別れていく・・・「阿波の踊り子」の冒
頭をお送りします。

一般参加: 75名

参加塾生: 井上章・大森史子・鍛冶睦子・金山正博・
北原祥三・塩本妙子・下野譲・杉山英三・田中捻三・
中島一・中山恵三・中村京子・原季美子・原田彰子・
堀内紀江・平野康子・村上蕪芳・森欽子・米川俊信・

菊地まどか 後援会

事務局 大阪市東住吉区東田辺3丁目6-12
ミヤビ管理内 TEL 06-6698-4581

会費: 年会費1口: 2,000円(何口でもOKです)

会費は郵便局窓口にある郵便振替用紙でも
お振込みできます。(手数料100円はご負担下さい)

口座番号 00990-1-204863

口座名称 菊地まどか後援会

